

栗野の地名

まちづくりサロン R7. 9.

1 大字「栗野」について

栗野は、地区ごとに細分化された地名がありましたが、昭和 56 年に住居表示変更がなされ、「栗野東(又は栗野東)〇丁目〇番地」となりました。

それまでの住所は、「大字栗野字〇〇 〇番地」でした。

大字(あざ)は、明治 30 年に合併し岩野田村になるまでの「栗野村」に由来します。

すでに中世の頃には京都安楽寿院領の栗野荘が成立していました。その後、江戸時代中期に東栗野村(大垣藩領)と西栗野村(高富藩領)に分立していた両村ですが、江戸時代末期には、いずれも高富藩領となり、明治 8 年に合併し、方県郡栗野村になりました(ちなみに、岩崎村は天領、三田洞村は高富藩領)。

※1897 年(明治 30 年)4 月 1 日、栗野村は、岩崎村、三田洞村と合併し、山県郡岩野田村になり(方県郡が分割され 3 村とも山県郡に編入)、岩野田村役場が岩崎に置かれました。その後、1949 年(昭和 24 年)7 月 1 日、岐阜市に編入となります。

※昭和 55 年に、小学校が分かれるとともに、自治会連合会も岩野田と岩野田北に発足しました。

※栗野の名の由来は、粟が生えていたことによる自然由来説、1221 年に住んだと言う栗野二郎国光にちなむ人名由来説など諸説あり。

2 栗野の小字について

字(小字)は、大字の区域の中のさらに小さな区画単位です。平安時代の荘園に見られ、その後、豊臣秀吉による太閤検地の区画単位の制度化され、江戸時代には検地帳の単位となる一方、人々の居住地にも小字がつけられ、住所として定着しました。従って、農村部ではない成り立ちの地域には、字に該当する地名は見当たりません。

田園地帯である栗野にも、字名が残されてきました。

しかし、昭和 56 年、住居表示事業によって、歴史文化を伝える小字名は、居住地を表す制度からは消え失せました。また、地名としての継承活動が行われていないケースも少なくありません。

以下、栗野の小字名について、岩野田郷土誌に山田敏弘先生が執筆され、記録とし残されています。その功績に感謝しつつ、引用・抜粋して紹介させていただきます。

また、単位自治会や橋梁の名前などに一部、その名残を見ることができます。



▲栗野台団地の造成前の丘陵の頂から南東方面を一望【1988 年(昭和 63 年)3 月 20 日】

3 小字の名称について

以下、番号は、別紙の字図の付番によります。

※青字は、サロンとして追記箇所

付番	字名	考えられる地名の由来	摘要
1	奥山	八幡洞の奥に位置する。	
2	東山	如来が岳の東に連なる山。	
3	黒田洞(くろだぼら)	農地に適した黒い土の田。 洞とは奥深い場所や谷間を指すことが多い。	
4	朝鮮山	三井田里戸籍に秦氏の名があり、渡来人が住んだか、関係していた?	朝鮮野?
5	段知洞(反知洞)	段になっている地。 1反より広い面積。	
6	黒田(くろだ)	農地に適した黒い土の田。	
7	井田尻(黒田尻?)	「尻」は先端、 末端 の意。	
8	東ヶ洞(ひがしがほら)	八幡洞より東に位置する。	
9	八幡洞(はちまんぼら)	実際は奥山にある八幡社のある洞。	
10	西ヶ洞(にしがほら)	八幡洞の西に位置する。	
11	水上(みずかみ)	河川の源流の意味だが、現在の原川の源流は別にある。	
12	西山	八幡洞の南西に位置する。	
13	玄德	「玄」は仏教用語で奥深い、静かの意。深遠な徳。	
14	釜ヶ洞(かまがほら)	山中のえぐられたような場所。	
15	大森前	「森」は「盛り」で小高い所。西の小山にある「大森宮」の前に位置する。	
16	河原	鳥羽川の河原の意。	
17	寺内	鎌倉時代から室町時代の頃、浄土真宗門徒が各地に寺を中心とした集落を建築したことに由来。	寺内橋の命名
18	寺内前	伽藍の正面がある方向が南で「前」になる。	
19	流(流田)	眉山のすそ野の傾斜地。	
20	山田	山にかこまれた水田、山裾にある小さな水田、開墾して田にする高さの地などの意。	
21	山田洞	同上。	
22	眉山	頼山陽が命名した山。	
23	小馬場(こまんば)	江戸時代の地図では「小万場」で、崖を意味する古語「まま」に由来する?	
24	鐘鑄(かねと)	文字通りなら、鐘を鑄る場所。西隣の寺内集落に関連する地名か?	
25	月野	「つき」は、「突き」で鳥羽川と末洞川の合流地点に突き出た土地という意又は、低湿地を埋め立てた「築野」か? 江戸時代には、川西に「月ノ」、対岸に「月埜前」があった。	月野橋の命名

26	月野山	同上。	
27	才勝	マメ科の落葉樹のサイカチが、村落境界に植えられたことによる？	 <p>サイカチは、秋田藩では一里塚に植えられた刺のあるマメ科の樹木。</p>
28	斉木	「遮る」が語源か。古代豪族の「佐伯(さえき、さいき)」氏との関係はあるか？	
29	北野	栗野の北に位置。	
30	寺沖	大龍寺の南に位置することにちなみ沖に見立てたか、離れた場所の意。	
31	辻	高富街道と伊自良と三輪をつなぐ道の交差点。	
32	山際	山の際にある地。	
33	稻荷畑	かつて稻荷神社があった？	
34	若宮	江戸時代の絵地図にある若宮(分祀された神社)に由来。	
35	八幡	かつて八幡神社があったか、所領があった？	
36	中屋敷	栗野東の集落が地域の真ん中に位置？	
37	天神	かつては神明神社が天神神社だった？	
38	吉成	実り豊かな田に、との願いを込めた？	
39	神宮	江戸時代の絵地図に「黒木宮」という小さな神社があることに由来。	
40	黒木	<p>「神宮」の由来同様、「黒木宮」という神社の近くに位置することが関係？</p> <p>くろ(畔)に木が植えられているの意？</p> <p>原川の合流し、刳(えぐ)りとられた(くる)場所か木との意？</p> <p>五行思想では、水は色では黒を指すことにも由来？ 古語で黒は水底の泥、沼の意味も。</p>	黒木橋の命名
41	松永	長く続く松のようにとの願いを込めた？ 松久の姓と関係がある？	
42	柳井田	鳥羽川の河川沿いの柳の生える小高い地。	
43	長畦(ながおさ)	細長い田畑があった。	
44	柿先(かきさき)	「かき」は「崖」「欠け」に通じ、かつて凹凸のある土地だった？	
45	山崎	山が岬のように飛び出した地の意。	
46	又田	末洞川が分岐していた場所と考えられる。	
47	辻石(すべりいし)	「辻り」は傾斜地。東西に傾斜があり、鳥羽川の遊水地として石が多かったとも。	



▲寺内橋(平仮名)



▲月野橋



▲黒木橋



▲八幡洞団地入口看板



▲崖が栗野台の造成前の字朝鮮山、住宅地が字段知洞。【1988年(昭和63年)頃・現在の栗野台南面の出入口の南から北方面】